

応援要員で異動してきた小林さん。10か月経った今では、その経験から皆に慕われ、リーダーを支えながら、ご利用者様に元気を贈り、時には縁の下力持ちとしてショートステイを支えてくれています。また施設内に留まらず、親睦会では実行委員会会長としても活躍。自己啓発として、介護福祉士の取得に向け勉学に励む一方、生活相談員になるための業務も積極的に学び、キャリアアップを目指しています。その日々の頑張り姿勢は他者が認め、見習うものであり、将来その活躍が大いに期待できます。そんな小林さんに感動介護賞を贈ります。(浦和みその翔裕館 小林 祐介さん)

心身の影響で気分不快などの訴えのあるデイサービスご利用者様。同じデイサービス利用のご近所さんが当園のショートステイに誘ってくれましたが、勇気が出ず、予約してもキャンセルの日々が続きました。担当ケアマネの続木さん。ご家族の負担軽減を図るためにもショートステイの利用を勧めるため、行事や創作活動の作品を熱心に伝えました。その熱い思いが徐々に心を動かし、ショートステイの利用につながることができました。デイサービスのご利用時にも離れた席と一緒に過ごせなかった利用者同士が同じテーブルを囲み、にこやかな時間を過ごすことができるようになりました。不安を抱えていたご家族でしたが、ショートステイからご帰宅後にご家族が訪ねる前に「楽しかったよ。」と話げできたことで安心されました。以前はデイサービスでも体調が悪くなることが多く、早めに帰られることが多かったので、声を掛けて下さったご近所さんからも「実は不安だったんだけど、こんなに元気な様子を見るのが出来てびっくりした。本当に誘って良かったわ。職員さんありがとうね。」との言葉をいただきました。何よりも何度も訪問して、様々な視点からサービス利用へつなげる行動を続けた続木さんの熱い思いと努力に対して、感動介護賞を贈ります。(の塚翔裕園 続木 早苗さん)

大人しい性格で、介護職員の中でも控えめな存在の清野さん。昨年の夏祭りでは実行委員長を務め、今年度も行事委員長として、日々のご利用者様の生活に喜びをもたらす努力をしています。レクリエーション、イベントなど、マンネリ化してきた中に、計画的なレクリエーションの実地方法を構築し、変わり湯などの日常生活でのイベントも毎月のように企画し、入浴嫌いなご利用者様が変わり湯を楽しみにされるようになりました。ボランティア受入担当としても従来のボランティアに加えて、トランプ奏者をお招きし、今までと異なる楽しみをご利用者様にお届けし、ご利用者様もそれを楽しみにされています。貴女のその弛まない創意工夫の努力に感動介護賞を贈ります。(国見ナーシングホーム翔裕園 清野みなみさん)

持ち前の明るさと多彩な趣味とその匠の腕前を活かし、デイサービスの書道・押し花・絵手紙・折り紙などの「お教室」に関わって頂いている白田さん。「昔は書道をやっていたけど、目が不自由になって何年も筆を持ったことがないの。また出来るかしら？」と書道を再開されたご利用者様や絵手紙・押し花を始められたご利用者様からご自宅のお花をいただくこともあります。「お教室」が始まるごとにご利用者様が「ちょっと行ってくるね」と周りに声をかけ、活動場所に集まります。ご利用者様一人一人のペースにあわせて日数や時間をかけ作品を完成に導いてくれるその手腕にご利用者様のご満足度は高く、それが生きがいづくりや笑顔につながっています。そんな白田さんに感謝を込めて感動介護賞を贈ります。(馬室たんぼ翔裕園 白田征代さん)

いつも笑顔でご利用者と接している岩崎さん。どんなに忙しくても、名前を呼ばれれば立ち止まって話を聞き、困っている様子のご利用者がいれば声を掛けにいきます。入社してから約6年。嫌な顔やイライラしている所を一度も見ることがありません。当たり前とはいっても、継続することは大変な事だと思えます。そんな人柄からか、なかなか職員の名前を覚えられないご利用者でもあだ名の『こうちゃん』はすぐに覚えてしまいます。技術や知識も大切ですが、笑顔で親身にご利用者と接する岩崎さんの姿勢に感動介護賞を贈ります。(大田ナーシングホーム翔裕園 岩崎孝太郎さん)

機能訓練指導員として異動してきた志賀さん。車いすのご利用者が入居された際、当初、消極的だった訓練でしたが、自尊心を傷つけないようなアプローチで杖歩行の誘導を行いました。はじめのうちはユニット間の移動程度しか歩行ができませんでしたが、日が経つにつれて歩行距離が延び、他のフロアや施設外周まで歩行が可能となりました。入居時は固い表情で参加されていた訓練も、歩ける距離が増えるにつれ笑顔が増えてきました。現在では、他のユニットでも様々な機能訓練を行い、施設全体に入居者の笑顔を広まっています。機能訓練が日常生活の支援や関わりの中で「楽しみ」や「生きがい活動」の一つとなり、それは特別養護老人ホームにおける機能訓練の一つの形ではないかと考えさせられた一場面でした。そんなアプローチをしている志賀さんに感動介護賞を贈ります。(いちかわ翔裕園 志賀一智さん)

年度途中でフロア主任に昇格した椿さん。自らが主任職の立場を弁え、率先垂範の施設でスタッフから信頼を得ています。介護スタッフの退職に伴う補充が思うに任せず、不安定になりがちな現場のムードを一生懸命の頑張りですっかりと乗り切っていることは、施設としても非常に助かっています。スタッフだけでなく、入居者・ご家族からの信頼も厚く、自立支援に向けたサービス提供の姿勢は、他の模範です。そんな椿さんに感動介護賞を贈ります。(足立翔裕園 椿 絵理さん)

いつも明るく笑顔で利用者に接している姿勢がとても良い沼田さん。不穏等で落ちつかない利用者にやさしく声をかけをし、利用者も穏やかになっています。その場面を見ていたご家族からもお褒めの言葉をいただき、「このような施設でお世話になっている事に感謝します。」と仰っていただいています。施設の中心職員として利用者・家族、地域の方々に愛され、一人でも多くの方々に感謝され、感動する介護の手本となっている沼田さんの姿に、感動介護賞を贈ります。(阿見翔裕園 沼田 悠さん)

ユニットリーダー小原さん。日々、ご入居者様に楽しんで生活していただくことに力を注いでいます。精神的ケアのウェイトが高いそのユニットでは、ご入居者様の安定には笑顔が欠かせず、毎日笑って過ごす事が重要です。小原さんは毎月の行事はもちろん、日々のご入居者様のニーズを吸い上げ、さまざまな企画を立案し、実行しています。デイのお風呂で温泉気分や昔懐かしシャボン玉、買い物ついでにちょっと寄り道スイーツ等々…。小原さん自身も元気によく笑い、ユニット内を明るく照らす太陽のような存在です。そんな貴女の太陽のような笑顔に感動介護賞を贈ります。(わぐち翔裕園 小原圭子さん)

精神疾患のあるショートステイのご利用者様。ある時「家に帰る」と不穏な状態に。介護拒否もあり、皆でさまざまな対応を実践するも一向に落ち着かれません。送迎車にて話を聞くことになりました。岩田さんは、「奥様との馴れ初め」などを感情的にならず淡々と聴きはじめ、するとご利用者様の不穏状態が解消されました。不穏な状態で暴力的な行為もあり、介護者の安全を考えた末、ご家族の思いにお応えできない決断をなくてははいけなくとも誰もが感じた瞬間、ユマニチュードの基本「話す」=相手が心地よく感じる言葉を穏やかな声で話しかけ続けるを実践し、ご利用者様の笑顔を取り戻した岩田さんの感動介護。人として向き合うことで介護に境界はないと感じることができました。(翔裕園 岩田大樹さん)

デイサービスの相談員からケアハウスの相談員となった山地さん。10万人に2人位が発症する疾患のご利用者様のご入居にあたって、ご本人、ご家族にとって一番幸せで安全安心な生活が担保できるよう病院への問い合わせやショートステイ先施設訪問など、何度も話し合いの場をもって入居の日を迎えました。ご入居当日、居室からはベッドが出され、2組の布団が敷かれ、各所にクッションや保護員で工夫された安全な環境が整っていました。また安全だけでなく、ご本人が安心して暮らしていけるよう配慮された温かな空間となっていました。ご家族もその対応にとても喜ばれ、ご本人も笑顔でご入居されました。ご入居後も病気の進行予防に向けて、有効なリハビリや楽しみながら活動量を増やせないかと、いろいろと考えています。探究心が強く、最後まで投げ出さず、ご入居者やご家族のことを第1に考え、納得し、理解するまで取り組みを実践する姿勢。職員の間でも真剣に向かい合い、時には厳しくアドバイスをし、嫌な顔をされてしまう事もありますが、お互いが納得のいくまで、一人一人のために話し合おう！という姿勢は感動介護への第一歩であると思います。これからの活躍に大いに期待し、山地さんに感動介護賞を贈ります。(行徳ケアハウス翔裕園 山地成さん)

昨年度の高齢者介護研究会を担当した小倉さん。メインテーマから発表の段取りまで他の職員を巻き込み協力を得ながら進め、見事に最優秀賞を獲得。今年は、主任に昇格し、今までのフロア責任者から介護課全体を統括する立場となり、職務をしっかりと意識し、積極的にフロアの垣根なく、業務に入り、ご利用者様と接しています。そんな貴男のご利用者様へ常に笑顔で接する態度、職員との誰に対しても平等に接する姿勢が幅広く信頼されています。また今年度蓮田市から依頼を受けた在宅介護教室の内容も副主任と共同で作成し、講師としても参加者から好評をいただきました。教室を今後も継続してほしいと言われる大きな力になったのは間違いありません。そんな小倉さんに感動介護賞を贈ります。(蓮田ナーシングホーム翔裕園 小倉徳之さん)

ある利用者様から夜勤の早朝になると、布田さんにだけ、毎回言われる言葉があります。それは「ちゃんとした寝たか?」「しっかり休んだか?」「朝ごはん食べたか?」この3つです。特別何かをしたつもりでもなく、当たり前のごケアと関わりの中で、なぜか布田さんに?と不思議に思っていました。直接、利用者様に理由を尋ねても、笑顔が返ってくるだけで本心が聞けません。ただ、その利用者様にとっては布田さんの日々の関わりや行動がうれしく、その表れなのかとこちらも嬉しくなります。そんな布田さんに感動介護賞を贈ります。(ケアホテルすみさん家 布田広子さん)

平成26年度感動介護賞に輝いた各施設で日々、灯された感動介護の灯をご紹介します。



3年程前に新規の女性ご利用者様がデイサービスに通うことに意欲がわかず、スタッフ皆でどうしたら…と考えた末、ご本人の生活歴から「農業」に注目。95才のご本人様は自宅で農作業がすでにお役ご免の状態。でも農作業に携わりたかったご本人様は、当園のデイサービスでの畑作業にモチベーションがかなり向上され、デイ農園の草取り、土壌、栽培する作物などをご自身で考て、作業いただくことで役割と生きがい回復されました。そして今年には農園を拡張することができ、大変感謝されていました。98才になられた今も車椅子要らず、杖要らずで元気に畑作業をされ、周囲を驚かせています。外部研修でその成果を発表した際には、危ないからプランターの方がいい意見もありましたが、ご本人様は「園芸ではなく、農作業がしたいのだ!」と本物志向に拘った信念がありました。それを尊重し、温かく見守り、作業を手伝ってきた倉田さんのご利用者様との微笑ましい関わりに、感動介護賞を贈ります。(このすたんぽポ翔裕園 倉田紀子さん)

養護老人ホームの支援員の柴田さん。サービスの質の向上と利用者満足にどう応えていくかという課題を常に考えながら、研鑽を重ね業務を行っています。ご利用者からの信頼度も高く、大変好評を得ています。豊かな人間性に幅広知識を備え持ち、いつも笑顔を決やさず前向きに取り組んでいる姿勢は他の職員からも信頼され、頼られる存在の柴田さんに感動介護賞を贈ります。(潮見老人ホーム 柴田朱見さん)

他職種からの転職してきた北道さん。介護に携わりたいという強い思いは入職当時から強く感じています。今日に至るまで彼女なりに学び、悩みながらの道であったと思いますが、常に笑顔を決やさず、利用者一人一人に寄り添う姿勢、責任感も強く体調を崩した時にもそんな自分に腹立たしいといえる人柄に感動です。現在は認知症実務者研修にも参加しており、ますますの成長を期待して、感動介護賞を贈ります。(かむりの里 北道孝子さん)

勤続17年目の古郡さん。若手からもベテランからも「古郡さんみたいになりたい」と言われる存在。さらには「やっぱり古郡さんみたいにはなれない」と諦めの念まで感じさせてしまう存在です。彼女がすごいとみなを感じるの、何か特別にすごいことをしているわけではないことです。当たり前のことが当たり前にできることが一番すごいのかも知れません。そんな彼女の当たり前のすごさは常にご利用者様の立場にたって物事を考え、働く仲間たちと細やかな目配りを欠かしたことがないことにも通じます。そんな彼女に是非感動介護賞を贈りたい。(栗橋翔裕園 古郡明美さん)

入職4年目になる小林さん、高校を卒業してすぐに翔裕園の仲間となり、先輩後輩とともにここまで成長を遂げました。介護課サブリーダーとして後輩への指導や実習生の担当として中心的な存在です。常に先輩職員や周囲の職員への気配りを忘れず、いつも明るく振る舞う小林さんから周りは元気をもらいます。今年の夏祭りは副実行委員長として職員配置や細かな準備に気を配り、責務をしっかりと果たし、利用者様・ご家族様に変な満足いただける開催となりました。今まで積み上げてきた努力や実績は施設内外で次世代の介護職員育成に期待できます。今後、中堅職員として、利用者様のケア向上、職員への質の向上に積極的に取り組んでいただけることに大きな期待を込めて感動介護賞を贈ります。(南方ナーシングホーム翔裕園 小林菜央さん)

重度の認知症を抱えながら、デイサービスやショートステイをご利用、ご主人との二人暮らしを継続されていたご利用者様。ショートステイのご利用時は、夜間には常に不安から居室では眠れず、リビングのソファで過ごされることもありました。その後有料老人ホームにご入居。リビングの電気を消し、居室でも眠りやすい環境をつくりましたが、10分毎にリビングに出てこられ「こわいねん」と不安そうにされておられました。そんな時、寄り添いながら「いつでもそばにいますよ。」「すぐ外にいるから安心して寝て下さい。」と声掛けを行った志賀さん。毎日繰り返し関わりを続けることで、徐々に生活のリズムが出来、他の入居者の助けも頂きながらの支援の結果、主治医の先生からも「奇跡の回復」といわれるようになりました。志賀さんはショートステイ利用時の先入観を捨て、あきらめずに関わりを持ったことで、今では「あなたのこと一番好きやねん」と言っていただけの信頼関係を築くことができました。これからは人間らしい暮らしや過ごしやすい場の提供ができ、家族の一員と思っていたいただけるような明るく元気に過ごせる関わりを継続してくれることに期待し、志賀さんに感動介護賞を贈ります。(昭和元気がら高槻 志賀 久米子さん)

話をすることが上手な鳩貝さん。業務の行いながら、空いた時間に利用者様の話をよく聴いています。利用者様の要望を聞いては、何とかしよう対策をたて、年齢は若いけれど、先輩職員や上司に積極的にその要望を発信し、また自ら実践しながら、利用者様とは楽しく話をして笑顔を引きだし、喜ばせてくれています。鳩貝さんがいることで、利用者様の雰囲気も明るく穏やかになり、自然と笑顔がふられます。介護福祉士として、利用者様としっかりと向き合いながらも、楽しんでいただきたいというサービス精神をもって素直に、日々取り組んでいる施設にとっても重要な存在の鳩貝さんに感動介護賞を贈ります(栗橋ナーシングホーム翔裕園 鳩貝芽久さん)

介護職に携わって十数年となる堀部さん。ご利用者一人一人のことを良く知り、個人個人にあったケアを常に心掛け、対応することを基本に日々取り組んでいます。利用者様の笑顔と「ありがとう、良かった。」の言葉を聞く度に、心から嬉しく思い、またがんばろうという気持ちになります。毎日、居室で過ごされるTさん。「どうしてこうなるのかなあ」と心配そうに話されるTさんの訴えを聞いていられるうちに、とても愛おしく、業務の合間をみてもは会話を待つように心掛けてくれています。最近は「待っていた。いつも話を聞いてくれてありがとう。」と言ってくれます。そんな「ひとりひとりの心に寄り添った真心ある対応」をしている堀部さんに感動介護賞を贈ります。(たかのす翔裕園 堀部まりさん)

新卒採用で入職した堀田さん。一般デイに半年間勤務した後、小規模のサテライト型のデイサービスへ異動。介護職1年生、社会人1年生として一生懸命業務をこなしてくれました。また翌年の入職式では、グループ職員を代表して歓迎のメッセージを新しい新入職員に送ってくれました。入職2年目の今日では、入浴拒否のある女性ご利用者様へ、根気よく声掛けを続け、入浴を促した結果、今では入浴拒否はなくなり、デイサービスに通うことを楽しみにしてもらえるようにまでなるなど、ご利用者様やまた後輩からも信頼を得ています。そんな堀田さんに更なる活躍を期待して、感動介護賞を贈ります。(鎌ヶ谷翔裕園 堀田恵里花さん)

日々、利用者様へのより良いサービスを意識しているサービス提供責任者の松本さん。高血圧の為、塩分制限のある利用者様の調理援助で塩分高めのものを多く依頼されることがあるため担当職員で会議を開催。毎回、訪問する職員は違う事からチームワークが重要と、週3回の訪問で徐々に塩分を減らしていく企画を実施。誰でも作れる減塩料理の一月間のメニューを決めて、塩分量を減らすことに取り組みしました。始めのうちは、味がしないとか不満もありましたが、素材そのものの味を活かせるよう魚料理、サラダをメインに献立。一ヶ月後には正常値の血圧を維持し、1日6gの塩分をキープできるようになりました。毎回変わる職員での対応も職員間の連携で乗り切り、高血圧に対しての勉強もでき、利用者様へのサービスの質の向上につながり、毎回感謝の言葉もいただいています。このような利用者様本位のチームワークの取り組みでこれからも多くの方々の在宅生活の支援をしてくれるよう期待を込めて、感動介護賞を贈ります。(あやせコミュニティパーク 松本知恵子さん)

今まで培ってきた介護力・人間力を発揮して入職当初から職務にあたっては元気の鳥袋さん。総合職研修や元氣塾、納涼祭、敬老会では実行委員長を務め、大いに活躍しています。更なる活躍に期待して、副主任へ昇格。今までの職務遂行に対する姿勢を評価し、それを今後の自身につなげ、ますます頑張ってもらいたいと思い、感動介護賞を贈ります。(大田翔裕園 鳥袋雄大さん)

ショートステイのご利用者様から、〇月〇日は結婚50周年の結婚記念日なんだと話を聞いた貴方。職員みんなで、話し合い、何かサプライズが出来ないかと考えていたところ、ご利用者様ご本人より、奥様の50年間の感謝の手紙を送りたいとの話を聞き、その手紙を奥様にお渡しするお手伝いすることになりました。結果的には、結婚記念日の当日、奥様が施設にお見えになり、施設でお手紙を渡されたその時、奥様からは感動の涙が…ご利用者様と施設職員の信頼関係が深まりました。感動介護をありがとう。(堅田ケアホテル翔裕館 山本直人さん)

専門学校卒業後、切磋琢磨して介護現場になくはならない存在となっている森岡さん。あるご利用者様の誕生会でのこと。それまでは既製品の誕生日カードをお渡ししていましたが、手作りカードを提案。自ら作成しました。そのままカードにメッセージを書いただけではつまらないと「しかけ絵本」を真似て「しかけカード」を完成させ、誕生日会でプレゼント。ご利用者様からは驚きと喜びと感謝で泣きながら「ありがとう」と拍手をくれました。そんな森岡さんに感動介護賞を贈ります。(ケアホテルのぞみ 森岡麗子さん)